

56. 原発性肺高血圧症に対し高気圧酸素治療施行の1例

後藤康之 佐々木和郎 田中史子
河東 寛 武谷敬之

(北海道大学医学部麻酔学教室)

原発性肺高血圧症(primary pulmonary hypertension, 以下 PPH)は予後不良の疾患であり, 治療法についても種々の試みがなされているものの, 明らかな効果を示したものはない。しかし酸素投与が一時的にも有効であること, 高地居住者に発生した PPH が sea level に転地することにより軽快した例があることより, 本疾患患者に高気圧酸素治療(OHP)をおこなったので, その経過を報告する。

患者は6歳の女児。家族歴には特記すべきことはない。2歳の時に心雑音を指摘される。5歳の頃より, 運動をすると息切れや疲労感をおぼえるようになり, 一過性に意識消失を生ずることもあった。

心電図ではPVCが多いときで50/分, 1日平均600~800生じ, またST下降がみられた。15カテ所見より, 本疾患の診断がなされた。そこで, Ca拮抗薬投与とともに, OHPが計画された。1日1回, 絶対2気圧30分酸素加圧とし, 連続10回を1クールとして現在5クールを施行中である。

現在, 治療開始前と比して, 心拍出量の増加(2.7 l/min → 3.9 l/min), 右室圧および肺動脈圧の軽度の低下(115/50→92/42)がみられる。一般状態も良好であるが, PVCの発生と, とくに心拍数が増加するとSTの低下がみられるため, 厳重な観察下におかれているものの, 一応 PPH の進行は抑えられているものと思われる。

57. 突発性難聴に対する高圧酸素療法, 星状神経節ブロックおよびプロスタグランジン E₁の3者併用療法の有効性

権田昌代 後藤文夫 藤田達士
渡辺久志*

(群馬大学医学部附属病院麻酔科
同 *高圧酸素室)

昭和59年6月より1年間, 本院耳鼻科で突発性難聴と診断された患者に星状神経節ブロック(SGB), Prostaglandin (PGE₁)点滴および高圧酸素療法(OHP)の3者併用療法を試み, 良好な成績を得ているので報告する。

治療対象は9歳~72歳までの突発性難聴49名(男26名, 女23名, 1名は両側性)とし, mumpsによる難聴は除外した。

治療方法は, 麻酔科外来において anterior approach を用いて SGB を行い, 30分間安静とし, その間に PGE₁ 60 μg を点滴した。その後高圧酸素治療室へ移し, 2.4絶対気圧(ATA)で1時間維持した。この併用療法を連日施行し, 20回を1クールとした。1クール終了時においてなお聴力回復過程にあるとみられる症例には, さらに10回追加治療した。来院時にウィルス抗体価(mumps, influenza A.B., adeno, herpes simplex)の検査を行った。治療効果の判定は, 厚生省の突発性難聴研究班の規準に従った。

全症例の有効率は68%(34/50)であるが, このうち発症後耳鼻科で内服治療し症状が固定してから来院した3名は無効であった。発症2週間以内に治療を開始した症例の有効率は78%, 2週間以降1カ月まででは44%, 1カ月以降2カ月まででは33%であり, 2カ月以降は1例であるが有効であった。年齢別の治療成績では, 30歳以下の年齢層において高く, 1カ月以内に治療を開始した10名では, 有効率100%であった。ウィルス抗体価上昇群(mumpsを除く)と正常値群を比較すると, 前者は81%, 後者は40%であった。

昭和50年より行ってきたSGBとOHPの併用療法に今回PGE₁の点滴療法を追加したが, その効果は現在のところ明らかでない。